

# ロシアのウクライナ武力行使に抗議

ウクライナ・キエフ  
26日



## ロシアによるウクライナ 軍事侵攻について

日本時間 2月25日午前2時（NHK発表）、ロシアが軍事侵攻を開始しました。これは世界中を色々な意味で驚愕させました。コメンテーターによっては「武力による軍事侵攻は考えにくい」といった楽観的情報が錯さうしていました。しかし、結果は最悪のものとなりました。



▲ロシア領事館への抗議行動

軍事侵攻にあたり、それに備えるウクライナ国内情勢を連日私たちはテレビ画面を通じて知ることになりました。そこに映っているのは、10代や20代の若者たちが射撃訓練を受けている光景です。

そして軍事侵攻間近になり、ロシア軍がウクライナ国境付近に侵攻を始めた時、「武器を手にしてウクライナのためにたたかう民間

兵」「隣国へ避難する人」「母国防衛のため愛する家族や恋人、友人と別れを告げる若者たち」がテレビで映し出される映像はどれもが悲しい風景でした。



いよいよ軍事侵攻が始まり、「チェルノブイリ原発がロシア軍によって占拠された」との情報が世界中に発信されました。

2月26日、一部報道によると、「チェルノブイリ原発の放射線量をモニタリングする施設で通常の20倍をこえる放射線量上昇が認められた」と世界中へ発信されました。これが事実だとすれば、人権問題だけではなく環境問題、生態系破壊を含む地球規模の問題です。そしてウクライナ国内にはチェルノブイリ原発以外に15基の原子炉がフル稼働の状態で存在し、危険にさらされています。



私は情報番組で戦争の映像を見ている時、ある言葉を思い出しま

した。「平和なくして労働運動なし」。私たちの大先輩が教えてくれた言葉です。そして私たち全港湾には「綱領」があり、また、平和4原則があります。結局、戦争を判断する政治家は戦地ではたたかわらないのです。血を流すのは弱者である老人・女性・子供たちで、戦争を望まない人びとなのです。



▲3・9緊急集会&パレード

そして私たち全港湾にもたくさんの方々が所属しています。その若者たちには家族や恋人、大切な友人たちと日々生活を営んでいます。

第2次世界大戦で私たちは敗戦国となり不戦の誓いを立てました。2度と港を軍港化することなく、そして、再び若者たちを戦地に送るようなことをしてはいけません。いま、この記事を作成している最中にも、改憲派の元総理大臣やコメンテーターがウクライナ問題を引合いに、「憲法9条の改悪、非核三原則の見直しで核共有に向けて議論すべきだ」と言われています。

これだけを見てもウクライナへの軍事侵攻は他人事ではありません。私は今回の問題を大阪だけではなく、中央本部、全国の皆さんと平和について何ができるのか考えていければと思います。

（執行部 佐久原 智彦）

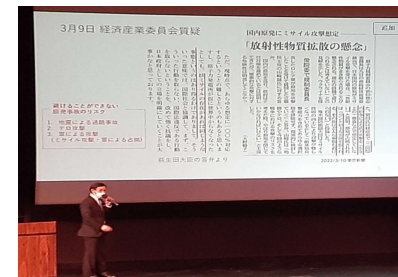
## 3・13さよなら原発集会

東日本大震災、福島原発事故から11年を迎えた3月13日、午後1時からエルシアターで、「さよなら原発 関西アクション」が700名の参加で開催されました。

大阪支部から7分会7名と執行部7名、計14名参加しました。講演として講師である神田香織さんは原発事故で避難した少年の物語を話されました。

そのあと立憲民主党環境エネルギー調査会事務局長、衆議院議員の山崎誠さんから講演していただきました。

冒頭に欧州委員会や日本でも原発はクリーンなエネルギー、脱炭素に向け、推進するコマーシャルがされています。しかし、ウクラ



イナ侵略戦争で原発がターゲットとなり、放射能汚染被害が懸念されています。いまだに原子力緊急事態宣言は解除されておらず、今なお福島県民はじめ3万8139人が避難をされたままです。汚染水タンクが、いっぱいになり放射能汚染水の海洋放出が強行されようとしています。



政府は、2021年4月13日、10年で約126万トン（福島第一原発では毎日平均約150トンの汚染水）の溜まった（処理水）を海洋放出の方針を決定しました。甚大な環境汚染を引き起こすだけでなく、原発事故の被害をうけ、深く傷つき、苦しんでこれ

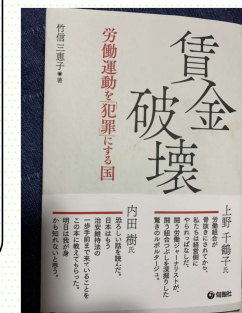
た地域の方がた、今も故郷にも戻れず、元の生活を取り戻せないでられる方がたの気持ちをないがしろにする決定です。海洋放出すれば、県民の風評被害はさけられないと思います。政府はその責任をどうとるのでしょうか？福島県いわき市の市議会でも、「もうこれ以上海を汚すな！なんとしても海洋放水くいとめたい！」と集会などもおこない、決定の撤回を訴えています。

原発の40年ルールは圧力容器がもろくなる目安として決められました。これからも、地震活動が活性化している現状を考えると老朽化した原発は耐震性があるのか重大な問題が置き去りにされています。政府は「2度と同じ過ちをおかさないための対処をすべきだ」と思います。原子力という人間が使いこなせないエネルギーを使用するのはおかしいと思いますし、処理できず、人体にも悪影響を及ぼす原発を使い続けるメリットはないと、この集会に参加して考えさせられました。

（執行部 竹山 保彦）

## 賃金破壊 —労働運動を犯罪にする国— 著：竹信三恵子

おすすめ図書



皆さんが組合員として当たり前のように企業に対して行使していた権利や行動（発言）が、ある日を境に犯罪とされ、仲間が次々と逮捕されたらどうしますか。

これは全日建連帯関生支部で実際におこった事件なのです。私が一連の事件を最初に知ったのは「インターネット」でした。しかし、私は真実（すべてを覆す）を後に知る事になったのです。

その情報の数々はレイシスト集団によって作り上げられた国家権力（資本主義者）にとって都合のいい映像だったのです。国家権力（資本主義者）によって日常生活を奪われた関生支部組合員やその家族の実体験が掲載されています。

みなさん、これは関生支部だけの問題ではありません。なぜなら全日建連

帯関生支部は労働委員会で認定された「法適合組合」だからです。法適合組合には労組法が適応されるのは当然のはずが、労組法が適応されていないのです。これは私たち労働組合の存在を国が否定しているのです。労働法学会の中（約300名の会員のうち78名）からも声明がでるほど危険な状態に陥っています（声明が出るのは非常に稀なことです）。これは労働組合だけの問題ではなく、「労働者すべての危機」と言っていきたいと思います。

本書には、関生支部組合員やその家族のたたかひの日々をはじめ、皆さんが知らない真実、われわれ労働者階級が、いかにして国家権力（資本家階級）の不当弾圧に打ち勝っていくのかわかりやすく書かれていると感じました。みなさんと共に「いま私たちの身の回りで一体なにが起きているのか」「それが私たちにとってどういう関係があるのか」といった視点で、この問題の本書を通し共有できればと思い、紹介するものです。

（執行部 佐久原 智彦）